

# 語種から見た現代日韓語彙の意味分野

張元哉\*

---

## 目次

---

1. はじめに
  2. 調査方法
    - 2.1 調査対象語の抽出
    - 2.2 調査単位
    - 2.3 意味番号の付け方
  3. 日韓語種別の意味分野
    - 3.1 大分類による分析
    - 3.2 小分類による分析
  4. おわりに
- 

## 1. はじめに

これまでの先行研究（宋永彬（1993）、張元哉（2003））では、日韓語彙は品詞より語種の面に大きな相違点があり、日本語は固有語・外來語、韓国語は漢語・混種語が多いことがわかっている。本稿は、日韓それぞれに多いとされる各語種において、どの意味分野に日韓相違が見られるのかを明らかにするのが目的である。日韓の意味分野の分析は、以下に現代語を対象にしたもの（①と②）と近代語（③）を対象にしたものがあるが、先行研究の傾向からわかるように異なり語数しか分析していない。異なり語数が比較的語彙の体系的な面を、延べ語数が語彙の運用の面を表しているならば、語彙の運用の面も見ることがあろう。日韓において語の種類は同じでもそれぞれの語の使い方が違う語があり、その語や語群（ある語が属している意味分野の語彙）を捉えることによって、日韓の語彙の使われ方を探ることができる。また先行研究の調査結果をみると、日韓両言語の相違点としてこれまであげられている事柄のうち、言語そのものの違いよりも調査対象資料（たとえば小學校の教科書）の内容の違いに起因するものもあり、すべて言語そのものの相違点とは言えない。その意味でも本稿の調査対象である對譯資料は、日韓の資料の内容が同じなので日韓の違いをより浮き彫りにすることができるだろう。

以下の[ ]は、先行研究の調査傾向を表すもので、調査資料、調査単位、異なり・延べ語数の順である。

---

\* 啓明大學校 専任講師 日本語學

- ①宋永彬 (1993) 『『分類語彙表』による日韓基本漢語の対照』『早稲田大學大学院文學研究科紀要』別冊20 [教科書、β単位、異なり]
- ②申玟澈 (2001) 『日・韓語彙の比較研究—「小學生基本語彙」を對象として—』『比較語彙研究の試み』(名古屋大學大学院國際開發研究科) [基本語彙集、長い単位、異なり]
- ③張元哉 (2001) 『19世紀末日韓同形同義漢語における日本製漢語の意味分野』『都大論究』38 [新聞・教科書、α単位、異なり]

## 2. 調査方法

### 2.1 調査対象語の抽出

調査資料は、日韓対訳新聞（『朝鮮日報』の韓国語版と日本語版）<sup>1)</sup>を對象とする。その理由は、現在入手できる日韓の対訳資料は童話や一部の文學作品に限られており、大量のデータを得るにはこの資料がいいと思ったからである。

対訳新聞の調査対象の範囲は、日本語譯をサービスしはじめた2000年1月10日から2000年7月11日までの6ヶ月間を調査範囲とした。まず、この期間中に日本語譯されたすべての記事の一覽表を作成し、一連番号を振った。抽出した単位は一記事とし、抽出比率は1/20にした。抽出比率を1/20にした理由は、予備調査でこの比率だと、日韓それぞれ延べ語數で約12万5000語（數字・記号・助詞・助動詞を含めて）ずつで、合計約25万語と予想され、個人的な調査ではこれ以上は難しいと判断したためである。また、抽出単位は、記事の内容に左右されないような文單位が望ましいと思われるが、手間や時間が非常にかかることから記事單位にした。また、この調査は用語用字調査ではなく、同じ條件での日韓の相違点を考察することが目的であり、少し記事の内容に左右されてもその結果にそう大きな影響はないだろうと判断したことも、記事單位を採用した理由である。

抽出方法は、最初に亂數を發生させスタート番号を決め、20記事間隔で抽出を行った。それから抽出された日本語譯記事に對應する韓国語版の記事を探した。以下の表1にサンプル數と各分野（分野の分け方は『朝鮮日報』のウェブサイトによるもの）の割合を示す。經濟・政治の分野が一番多く、スポーツが一番少ない。

表1 母集団とサンプルの數 (單位 記事)

記事	文化	經濟	政治	スポーツ	社會	論說	計
母集団	319	852	854	165	517	345	3052
サンプル	16	43	43	8	26	17	153
%	10.5	28.1	28.1	5.2	17.0	11.1	100

### 2.2 調査單位

1) 資料は朝鮮日報ホームページで閲覽することができる。

韓国語版→<http://www.chosun.com>、日本語版→<http://japanese.chosun.com>

調査単位は、『現代雑誌九十種の用語用字第一分冊（二分冊、三分冊）』（国立国語研究所、1962、以下『雑誌90種1（2、3）』）で用いられたβ単位（形態素相当）を採用し、これを基準として単位切りを行った。短い単位であるβ単位を採用した理由は、できるだけ記事の内容に左右されないようにするためである。また、これまでの調査で明らかになっているように、長い単位の場合、異なり語数が多くなる一方、延べ語数は少なくなる傾向がある。調査結果の信頼性を安定させるためにも、延べ語数が多く得られる短い単位を採用したのである。

β単位の単位切りの方や同音異語判別の基準は、基本的に『雑誌90種1、3』にしたがう。ただ、同音異語判別においては『雑誌90種1、3』の基準を変えたものが一つある。「物」と「者」（もの）についてである。同書では一つの見出し語に合併してあるが、韓国語を考えると別見出しにしたほうがよいと判断した。日本語では同じ読みであるが、韓国語では読みが異なるからである。

### 2.3 意味番号の付け方

調査方法によって得られた調査対象語に意味番号を付けていくが、意味番号は1語に一つだけを付けることにした。『分類語彙表』（国立国語研究所、1964）に収録されていて、1語に一つの意味番号のみが付いている語は、そのまま利用する（『分類語彙表（増補版）』も参照）。しかし、一語に二つ以上の意味番号がある多義語の場合は、代表的な意味についての意味番号を付けることにし、『雑誌90種1』の意味番号を参考にした。また、複合語や団体名などは、意味の中心となる語についてその意味番号を付ける。そして意味番号が付いていない語については、類義語を手がかりにする。韓国語における同形同義語は日本語におけるそれと同じ意味番号を付けることは問題ないが、それ以外の語は、日本語に譯し、該当語の意味番号を付けた。たとえば、「勸하다」「限하다」はそれぞれ「勧める2.364」<sup>2)</sup>、「限る2.1584」に、「強하다」「弱하다」はそれぞれ「強い3.14」「弱い3.14」のようにである。

・多義語（2つ以上の意味番号）の場合

あう[2.1556、2.351、2.112、2.1550]→2.1550	あがる[2.1502、2.333、2.1540]→2.1502
依る[2.111、2.1562]→2.111	明らか[3.501、3.306]→3.306
不正[1.3046、1.1343]→1.3046	

・団体名や複合語の場合

FIFA（国際サッカー連盟）→1.28	IPI（国際言論人協會）→1.28
WTO（世界貿易機構）→1.275	プラズマパネル→1.412
ベッドシーン→1.529	プロチーム→1.281

## 3. 日韓語種別の意味分野

2) 『分類語彙表』の意味番号(分類の仕方)は、正数が1：体言類(名詞・代名詞)、2：用言類(動詞)、3：相言類(形容詞・形容動詞・連体詞・副詞)、4：その他の類(接續詞、感動詞)を意味し、小数点一位が、1：抽象的關係(以下、抽象)、2：人間活動の主体(以下、主体)、3：人間活動—精神および行爲(以下、活動)、4：人間活動の生産物—結果および用具(以下、生産)、5：自然—自然物および自然現象(以下、自然)を意味する。

### 3.1 大分類（小数点第1位）による分析

日韓語種の意味分野について分析に入る前に、日韓の意味分野について全体的な傾向と先行研究との位置を行うことにする。

まず、意味分野と語種の分布については、宮島（1980）の調査（表3）があり、和語-「1.5自然」、漢語-「1.3人間活動」、外來語-「1.4生産」が各語種において多い分野である。本調査（表4）と比較すると、まず、どの分野でも新聞のほうが漢語の割合が高い反面、和語(固有語)が少ない。新聞に漢語が多い特徴が見られる。各語種に多い分野として、漢語や外來語は宮島(1980)と一致するが、和語(固有語)は食い違う。「1.5自然」は、先に述べた、母集団によるものである。

本調査（表2）の異なり語数については、本調査の資料が翻譯資料の性格であるので、当然の結果かもしれないが、日韓の意味分野の数値がほとんど同じである。本調査の異なり語数を先行研究（表3の宋永彬(1993)）と比較してみると、日韓ともに本調査のほうが大体「1.1抽象～3.3活動」分野が多く（ただ、本調査の韓国語における「.2の主体」は先行研究より0.1%低い）、「.4生産」と「.5自然」分野が少ない。これは、新聞という資料の影響もあるかもしれないが、母集団の性格・調査方法によるところがより強いのではないかと思われる。つまり、母集団は、新聞記事のうち、「主な記事」だけを対象に日韓の對譯がなされていたからであり、表1からわかるように「政治・經濟」の分野が多い反映であろう。

表2 日韓對譯新聞の意味分布

	延べ語数				異なり語数		
	日本語	%	韓国語	%	日本語	%	韓国語
.1	14785	47.1	16943	50.4	2089	43.5	2172
.2	3633	11.6	3331	9.9	481	10.0	464
.3	11495	36.6	11711	34.8	1803	37.5	1851
.4	1018	3.2	1010	3.0	240	5.0	253
.5	468	1.5	652	1.9	190	4.0	250
計	31399	100	33647	100.0	4803	100	4990

表3 先行研究の意味分布

宋永彬(1993)

宮島(1980)

	宋永彬(1993)				宮島(1980)			
	日本語	%	韓国語	%	和語	漢語	混種語	外來語
.1	1842	35.2	1653	34.3	1.1	34.0	62.8	1.0 2.2
.2	442	8.5	453	9.4	1.2	39.0	55.9	2.1 3.0
.3	1785	34.1	1692	35.1	1.3	18.5	77.0	2.1 2.5
.4	435	8.3	398	8.3	1.4	36.6	40.5	3.5 19.4
.5	727	13.9	629	13.0	1.5	65.6	30.9	0.6 2.9
計	5231	100	4825	100				

次に本調査の延べ語数については、延べ語数を対象とした先行研究がなく、本調査の位置付けはできないが、全体的な傾向として日本語は「.2主体」「.3活動」「.4生産」分野が多く、韓国語は「.1抽象」「.5自然」が多いことがわかる。各意味分野における日韓の語の種類は大体同じでも語の運用面では異なっ

ている。以下に語種の観点を入れて詳しく分析を行うことにする。

「はじめに」でも述べたように、日韓語彙は品詞より語種に大きな相違点があることがわかっており、語種を中心に各意味分野をみとめることにする。品詞別に小数点1位までをまとめたのが表4である。表4の各語種の分野に網をかけたのは、各意味分野に $\chi^2$ 乗検定によって有意差があり、そのうち、日韓語種の比率に比較的開きがあるものである。

表4 品詞別小数点第1位の意味分布

- ・意味番号のは、各意味分野の日韓の語種比率に相違がある分野 ( $\chi^2$ 乗検定の1% 以下の有意差)
- ・網を掛けたのは、有意差がある分野のうち、各語種の比率が相手の言語より大きいことを表す。

	固有語				漢語				混種語				外来語				総計	
	J	%	K	%	J	%	K	%	J	%	K	%	J	%	K	%	J	K
1.1	2060	20.93	2264	20.25	7055	71.68	8312	74.36	25	0.25	93	0.83	703	7.14	509	4.55	9843	11178
1.2	297	8.18	245	7.36	3053	84.04	2880	86.46	42	1.16	20	0.60	241	6.63	186	5.58	3633	3331
1.3	558	7.18	380	4.64	6733	86.60	7464	91.17	87	1.12	11	0.13	397	5.11	332	4.06	7775	8187
1.4	116	11.39	62	6.14	669	65.72	735	72.77	16	1.57	11	1.09	217	21.32	202	20.00	1018	1010
1.5	67	16.18	115	24.47	326	78.74	341	72.55	5	1.21	7	1.49	16	3.86	7	1.49	414	470
1 計	3098	13.66	3066	12.68	17836	78.63	19732	81.62	175	0.77	142	0.59	1574	6.94	1236	5.11	22683	24176
2.1	2371	93.79	2374	90.78					157	6.21	241	9.22					2528	2615
2.3	3327	99.76	3083	95.07					8	0.24	160	4.93					3335	3243
2.5	22	100.00	128	98.46							2	1.54					22	130
2 計	5720	97.20	5585	93.27					165	2.80	403	6.73					5885	5988
3.1	1224	53.06	1990	66.13	1070	46.38	982	32.64	7	0.30	34	1.13	6	0.26	3	0.10	2307	3009
3.3	179	50.42	69	25.94	173	48.73	195	73.31	2	0.56	2	0.75	1	0.28			355	266
3.5	18	56.25	28	53.85	13	40.63	24	46.15					1	3.13			32	52
3 計	1421	52.75	2087	62.73	1256	46.62	1201	36.10	9	0.33	36	1.08	8	0.30	3	0.09	2694	3327
4.1	107	100.00	136	96.45			2	1.42			3	2.13					107	141
4.3	26	86.67	5	33.33	3	10.00	8	53.33	1	3.33	2	13.33					30	15
4 計	133	97.08	141	90.38	3	2.19	10	6.41	1	0.73	5	3.21					137	156
総計	10372	33.03	10879	32.33	19095	60.81	20943	62.24	350	1.11	586	1.74	1582	5.04	1239	3.68	31399	33647

まず、固有語と漢語についてであるが、「1.3」「1.4」「3.3」「4.3」の分野では、固有語は日本語が多く、漢語は韓国語が多い。日韓語種の傾向と一致する分野である。しかし、「1.5」と「3.1」の分野では、固有語は韓国語が多く、漢語は日本語が多い。日韓語種の傾向と一致しない分野である。次に混種語の「1.2、1.3、1.4」は日本語が多く、日韓語種の傾向と一致しないが、「2.1」「2.3」に韓国語の語数が多く、日韓の混種語における体言類の差より用言類の差のほうが大きいことから、全体的に韓国語の混種語が多くなったのであろう。それから外来語では、「1.1」に日本語が多い分野である。

以下、網を掛けた分野については、小分類に分けて分析を行うが、混種語と外来語は固有語と漢語に比べ、語数が少ないので、小分類の分析は行わないことにする。日韓の固有語と漢語を中心に分析を行う。

### 3.2 小分類(小数点第2位)による分析

では、固有語と漢語については表4に網をかけた分野を小分類(小数点第2位)に分けて説明をするが、固有語と漢語は、一方が多くなれば一方が少なくなる関係なので、説明も一方だけにする。こ

ここでは固有語を中心に説明を行う。表5～表9の各意味分野の総計は、混種語と外來語をも含めた合計である。また各意味分野に比較的語数が多く、語種比率に日韓の相違が見られる分野について用例をあげる。以下、各分野の用例は度数順。語形の右側にある数字は度数を表し、必要に応じて付けておいた（以下、同）。

以下は、韓国語より日本語の固有語が多く、漢語が少ない分野である。

○ 「1.3」体言類の活動

表5 「1.3」分野における小數点第2位の意味分布

	固有語				漢語				総計	
	J	%	K	%	J	%	K	%	J	K
1.30	98	4.15	153	6.12	2200	93.26	2292	91.64	2359	2501
1.31	54	5.17	52	4.8	849	81.32	938	86.61	1044	1083
1.32	6	4.76	10	7.63	97	76.98	100	76.34	126	131
1.33	17	3.54	87	15.4	349	72.71	408	72.21	480	565
1.34	254	39.02	15	2.27	380	58.37	631	95.46	651	661
1.35	23	3.16	14	1.82	661	90.92	705	91.56	727	770
1.36	17	2.66	14	1.97	616	96.25	694	97.47	640	712
1.37	83	7.76	30	2.79	941	88.03	1030	95.72	1069	1076
1.38	6	0.88	5	0.73	640	94.26	666	96.8	679	688

「1.34」行爲 日本語－生まれ243, 力7, いたずら2, 身元  
 韓国語－힘(力)7, 억지(無理押し)3, 짓(仕業)3, 게으름(怠け)

日本語の「(何年) 生まれ」による違いである。この語に対応する韓国語は、「生」で、「1.34」の漢語のほうに分類されている。

○ 「1.4」体言類の生産

表6 「1.4」分野における小數点第2位の意味分布

	固有語				漢語				総計	
	J	%	K	%	J	%	K	%	J	K
1.40	13	12.62	5	4.35	88	85.44	108	93.91	103	115
1.41	17	8.33	16	7.69	152	74.51	156	75	204	208
1.42	3	9.38	5	14.71	7	21.88	17	50	32	34
1.43	12	21.82	12	21.43	30	54.55	33	58.93	55	56
1.44	37	42.05	4	6.45	25	28.41	42	67.74	88	62
1.45	18	5	13	3.64	294	81.67	297	83.19	360	357
1.46	5	4.17	4	3.08	43	35.83	51	39.23	120	130
1.47	11	19.64	3	6.25	30	53.57	31	64.58	56	48

「1.44」住居 日本語－居間, 建物 壁掛け, 床  
 韓国語－마루(床), 꽃담장(花の垣)

「1.40」物品 日本語－金, 忘れ物, 品物, 葉書, 落し物  
 韓国語－돈(金)

「1.47」土地 日本語－橋, 架け橋, 廣場, 池, 芝生, 溝  
 韓国語－다리(橋), 잔디(芝生)

まず、日本語の①「忘れ物」「落し物」②「建物」「品物」「葉書」「廣場」は、韓国語では、①は韓国語의 유실물(遺失物)、②は日本から輸入し、韓国語の字音で音讀している語であり、各分野において日本語

は固有語が多く、韓国語は漢語が多い。それから日本語の「居間」「床」と「橋」「掛け橋」は、それぞれ韓国語の「마루(床)」と「다리(橋)」の1語に対応していることで日本語に固有語が多くなった(異なり語数)と思われる。

○ 「3.3」相言類の活動

表7 「3.3」分野における小数点第2位の意味分布

	固有語				漢語				総計	
	J	%	K	%	J	%	K	%	J	K
3.30	148	80.87	44	54.32	33	18.03	37	45.68	183	81
3.31	3	60			2	40	3	100	5	3
3.33	13	59.09	11	55	9	40.91	7	35	22	20
3.34	10	18.18	14	18.67	45	81.82	61	81.33	55	75
3.35	1	33.33			2	66.67	1	100	3	1
3.36	3	4.35			65	94.2	70	100	69	70
3.37	1	5.56			17	94.44	16	100	18	16

[3.30意識]

日本語—明らか89, うまい9, 明るい, 欲しい, 楽しい, 望ましい, 疑わしい, うれしい, 思わしい, 悲しい, 確か, つまらない, 嘆かわしい, 果たして  
 韓国語—싶다(～たい)8, 반갑다(うれしい)4, 즐겁다(楽しい)3, 궁금하다(心配), 기쁘다(うれしい), 두렵다(怖い), 아쉽다(物足りない), 안타깝다(氣の毒)

「明らか」は、「～明らかに/した。」のような表現として多く使われていて、これに対応する韓国語は、「밝히다102」の動詞である。また、「明らかに/なった。」に対応する韓国語は、「밝혀지다」(밝히다+지다)もあるが、ほとんどが、「드러나다」に譯されている。1語-2語の対応になっている。1語-1語の対応の場合は(本資料ではすべて連体形、「명백(明白)2、분명(分明)6」の漢語に譯されている。

それから「うまい」は、ほとんどが<上手であること>の意味で、連用形「うまいく」「うまく生かした」などに使われており、韓国語の副詞「잘(よく)26」に譯されている。「잘(よく)」の意味分野は、「3.13調子」に入れてある。ちなみに日本語の「よく」は度数2である。

○ 「4.3」その他

日本語—お12, まさに, もし, やはり, おそらく, なんか  
 韓国語—자칫, 아마

日本語の「お」の影響が大きい。「お」に対応する韓国語はない。

次に以下は、日本語より韓国語の固有語が多く、漢語が少ない分野である。

○ 「1.5」体言類の自然

表8 「1.5」分野における小数点第2位の意味分布

	固有語				漢語				総計	
	J	%	K	%	J	%	K	%	J	K
1.50	10	34.48	12	30	18	62.07	26	65	29	40
1.51	7	4.35	22	15.07	144	89.44	122	83.56	161	146
1.52	4	6.9	15	17.05	52	89.66	71	80.68	58	88
1.55	12	44.44	17	42.5	14	51.85	23	57.5	27	40
1.56	18	42.86	25	50	22	52.38	22	44	42	50
1.57	10	41.67	21	55.26	10	41.67	14	36.84	24	38
1.58	6	8.22	3	4.41	66	90.41	63	92.65	73	68

「1.51自然」

日本語－電子40, 原油28, 導体26, 鐵8

韓国語－전자(電子)40, 원유(原油)6, 도체(導体)27, 철(鐵)16

これをみると、その違いが「原油」にあることがわかる。「原油」に対して韓国語がどのように譯されているかを見ると、ほとんどが「油価」25になっていて、日本語の「原油/価格」の2語に対応している。「油価」は、手元にある小型韓国語辞典にも載っていることから臨時的なものではない。造語形式としては日本語にあってもよさそうな語であるが、日本語にはなく興味深い。これからこのような造語形式(語構成)などについての日韓相違点も考察する必要があるだろう。

○ 「3.1」相言類の抽象

表9 「3.1」分野における小数点第2位の意味分布

	固有語				漢語				総計	
	J	%	K	%	J	%	K	%	J	K
3.10	324	69.83	486	76.66	140	30.17	144	22.71	464	634
3.11	102	61.82	178	74.17	63	38.18	62	25.83	165	240
3.12	130	46.76	406	74.77	146	52.52	135	24.86	278	543
3.13	64	16.28	93	36.9	325	82.7	156	61.9	393	252
3.14	18	52.94		0	16	47.06	23	85.19	34	27
3.15	4	12.9	10	18.52	27	87.1	44	81.48	31	54
3.16	303	80.16	405	71.68	75	19.84	156	27.61	378	565
3.17	1	50							2	1
3.18			1	16.67	4	100	5	83.33	4	6
3.19	278	49.82	411	59.83	274	49.1	257	37.41	558	687

「3.10こそあど」の分野は、日本語の「この158」「その62」などより韓国語の「이」227、「그」96の度数がかなり高い。が、これについての詳しい原因は、現段階ではよくわからない。今後、詳しい分析を待たねばならない。

「3.11関係」日本語－共19, 同じ18, まま, 近い, なぜ, かえって

韓国語－같다78(おなじ), 함께38(共に), 오히려(かえって), 가깝다(近い)

「같다」は、日本語の「同じ」「そうだ」「ようだ」の意味を持っており、多義語で度数が高い。また、「이와 같이(このように)」「이와 같은(このような)」は、それぞれ「こう」「こうした」に、「같은 기



間(同じ期間)』は「同期」の漢語に譯されている。日本語の「そうだ」は、本調査の規則によって調査対象外とされていること、「ようだ」は、漢語の「3.13調子」に入っていることによって、この分野に韓国語の固有語が日本語のそれより多いと思われる。

「3.12在不在」

固有語 日本語—ない106, むずかしい9, 必す4, にくい

韓国語—없다136, 않다124, 아니하다57, 못37

漢語 日本語—可能46, 不37, 必要36

韓国語—可能39, 必要35, 不24

韓国語の「않다124, 아니하다57」は、日本語の「(では) ない」にあたるもので、日本語の「~ (では) ない」は、調査規則によって対象外にしたのに對して、韓国語では形容詞として扱っていて調査対象にした原因もあるが、調査規則による日韓の相違を除いても韓国語の固有語は多い。「못37」は、不可能の意味を表す副詞で日本語にない語である。

この分野の漢語には、「不」の度数に相違が見られるが、その相違は「不/十分」にある。韓国語の「十分」は、「능력을 십분 발휘하다 (才能を十分發揮する)」のように副詞としか使えなく、「不」との結合はしない。ちなみに「不十分」の韓国語譯は、「미흡(未洽)하다」「허술하다」の漢語や固有語になっている。「可能」の度数の差は、日韓のほとんどが「可能」—「가능 (可能)」で一致するが、日本語の漢語の「可能」に對して「할 수 있다」「못 하다」のように韓国語の固有語の可能表現に譯したことも一因であると思われる。

「3.13調子」

漢語 日本語—「様163」「特(히) 34」

韓国語—「特(히) 34」

日本語の漢語がこの分野に多い理由は、先に述べたように韓国語の固有語「같다78 (おなじ)」に對応する日本語の「様(だ)」が入っているからである。

「3.19程度」

固有語 日本語—多い46, 大きい34, 最も29

韓国語—많다53, 크다48, 한37, 더29, 가장25, 높다23

この分野に日本語にはない韓国語、「한」は、日本語の連体詞にあたるもので、〈一つの〉〈同じ〉の意味である。それから「더」は、日本語の「より(高い)」「さらに」に對譯がされたり、次のような決まった表現は、「조금 더 필요하다」—「もう少し必要である」、「A보다 B가 더 늘어난다」—「AよりもBが\_\_増える」のようにさらに別のことばや省略されるところがある。1語—多語の對応になっている。

以上のように各分野における日韓の相違やその原因を見てきた。ここでの日韓相違点は言語外的な要因よりは、言語内的な要因が目立つ。これは、語の運用面(延べ語數)を中心に分析した結果であろう(異なり語數を對象にすると比較的言語外的な要因が目立つ)。言語内的な要因としては、ま

ず主に「語種」の違いによることが大きく、「品詞」の相違による語もすこし見られる。村木（1981）は、意味分野の語彙量の違いについていくつかの言語内的な諸条件をあげている。

1) 類義語 2) 多義語 3) 単語の抽象度[①融合②中和③相關] 4) 単語の有契性 ①派生語②複合語

本調査は、β単位（形態素単位）を採用しているので、「4）単語の有契性」の条件は、あまり該当の例がないが、これまでの説明からすると、少なくとも「類義語」、「多義語」の条件による日韓の違いは見られる。「類義語」は「橋、掛け橋」(J) <-> 「다리」(K) などがある。「多義語」は固有語に多いが、たとえば、「明らか」(J) <-> 多語 (K) に対応する場合、対応している韓国語の多くの語がそれぞれ単義語であればこれらを合せた度数が、「明らか」の度数と同じになるだろうが、対応する語が固有語の場合（多義語が多い）は、かならずしも日本語の「明らか」と同じ意味分野に入るとは限らないため、相違が生じるのである。それから「単語の抽象度」とかかわるものもある。先ほどの「橋・掛け橋」の例のように、韓国語は1語で具体性と抽象性の意味を両方表している。

村木（1981）があげている諸条件は、意味分野の調査結果から歸納されたものではなく、語彙量に及ぼしうる条件としてあげており、実際どこまで有効であるかはよくわからない。また、これらの諸条件は異なり語数（語彙体系）による分け方で、必ずしも延べ語数（語の運用）にも当てはまるとは限らない、という問題点は残るが、示唆するところは多い。

## 4. おわりに

語種による日韓の意味分野の相違点をみてきたが、まず、大分類においては日韓の語種の傾向（日本語は固有語と外来語が多く、韓国語は漢語と混種語が多い）と一致する分野と一致しない分野があった。次に小分類においては以下のように簡単にまとめられる。

韓国語より日本語の固有語が多く、漢語が少ない分野

「1.3」「1.4」「3.3」「4.3」

日本語より韓国語の固有語が多く、漢語が少ない分野

「1.5」「3.1」

以上の日韓における意味分野に相違点があるが、その原因は何か。言語内的な条件として村木（1981）の諸条件を言及したが、これは上でも述べたように調査結果から歸納されたものではないこと、また語彙体系（異なり語数）に適していることなど、本調査の語彙の運用における諸条件として十分なものではない。したがって、日韓の意味分野の相違にはどのような言語内的な条件があり、各条件の量はどのくらいあるのかを明らかにすることが今後の課題になるだろう。

## 【参考文献】

- ・ 国立国語研究所(1962) 『現代雑誌九十種の用語用字第一分冊（二分冊、三分冊）』秀英出版
- ・ 国立国語研究所(1964) 『分類語彙表』秀英出版

- ・ 国立国語研究所(1996) 『「分類語彙表」形式による語彙分類表 (増補版)』
- ・ 申玟澈(2001) 「日・韓語彙の比較研究—「小学生基本語彙」を対象として—」 『比較語彙研究の試み7』 (名古屋大学大学院国際開発研究科)
- ・ 宋永彬(1993) 「『分類語彙表』による日韓基本漢語の対照」 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』別冊20, pp150-152
- ・ 張元哉(2001) 「19世紀末日韓同形同義漢語における日本製漢語の意味分野」 『都大論究』38
- ・ 張元哉(2003) 「現代日韓語彙の対照研究- 対訳コーパスを資料に-」 『日本學報』55-1
- ・ 宮島達夫(1980) 「意味分野と語種」 『国立国語研究所研究報告集』2, pp.4-7
- ・ 村木新次郎(1981) 「日本語とドイツ語の「基本語彙」をくらべる」 『計量国語学』12-8, pp.362-366



## 要 旨

本稿は、日韓対訳新聞（『朝鮮日報』の韓国語版と日本語版）を対象に語彙調査を行い、これによって得られた語に意味番号（『分類語彙表』）を付けて語種の観点から分析したものである。分析した結果は以下のとおりである。

大分類においては日韓の語種の傾向（日本語は固有語と外来語が多く、韓国語は漢語と混種語が多い）と一致する分野と一致しない分野があった。次に小分類においては以下のように簡単にまとめられる。

韓国語より日本語の固有語が多く、漢語が少ない分野

「1.3」「1.4」「3.3」「4.3」

日本語より韓国語の固有語が多く、漢語が少ない分野  
「1.5」「3.1」

キーワード：語彙・意味分野・『分類語彙表』・對照・語種・運用・  
延べ語數・異なり語數

투 고 : 2004. 2. 28  
1차 심사 : 2004. 3. 13  
2차 심사 : 2004. 4. 3

住 所 : (702-756) 대구시 북구 구암동 655-4 미래타운 103-605  
電 話 : 053-580-6944  
E-mail : wonjaec@kmu.ac.kr